

慶蔵院寺報

公孫樹

2025年3月発行

第158号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726



山村御流の生け花 雪柳とフリージア 画 山寄淑子

お待たせしました!! 永代供養墓

永代供養墓、目に見える形で出来上がってきました。境内の西側に、基底の部分が三十基、完成しています。

どうぞ見学にいらしてください。基底の上には、先祖代々の昔の墓石を載せてもらってもよいかと思えます。オプションで、希望にそった墓石をのせてもらってもかまいません。竹谷石材さんの方でサンプルを用意していただいています。

サンプルは、約三万円程度で考えてくれているそうです。しかしサンプルにこだわることなく、予算の範囲内で、自由な石碑を選択していただいてもかまいません。基底に載せることが出来る石碑であればいいのです。これらも竹谷石材さんが相談に応じてくれますから「ふるさとづくり」のつもりでゆっくと検討していただくいい。

さて気になる費用の事ですが、計算の方法は、以下の通りです。今回の永代供養墓整備にかかった諸経費を集計し、三十で割りまして、これで割り出された費用と、慶蔵院が預かる永代供養「布施」を加えて算出します。これは寺世話人六役会議で検討していただき、決定して、四月号「公孫樹」でお知らせしたいと考えています。営利目的事業の墓ではありませんから、一般には公開しません。あくまでも慶蔵院檀信徒・関係者の必要性に応じて、希望に沿って建設、整備されたものです。さらに希望される方があり、三十基で足りなくなりました場合には、境内にはまだまだ余地がありますから、同様の方法で増設します。

あわてずに、現地も見ていただいて、必要とあればいつでも希望をお聞かせください。

皆さんの要望にお応えできるようにすすめてまいります。



3月の行事予定



5日(水)	写経会 男性詠唱隊	午前10時～ 本堂にて 午後7時～
10日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後1時半～ 参加費 2000円と花代
12日(水)	羊毛フェルト教室 講師 monmo先生 落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後1時～3時 一会館にて 「ペンギン」作り 参加費 1500円 午後7時～ 一会館にて
19日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 本堂にて 参加費 500円
13日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 参加費1回 1000円
20日(木)	春彼岸法要・塔婆回向	午前10時～11時
26日(水)	地蔵講・地蔵堂御開帳	午後1時半～ 地蔵堂にて
26日(水)	戦没者慰霊・平和の鐘	朝の勤行にて、 鐘撞きは午前8時頃
14日・28日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生	午後7時～子ども茶道教室 午後7時半～大人茶道教室 参加費 大人 500円 一会館にて
8日・22日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円

慶成院豆知識



般若心経の冒頭部分で気づいたこと
最近、朝の勤行で般若心経も唱えています。

「観自在菩薩行深般若波羅蜜多時…」と唱えます。現代語訳にすると、「観自在菩薩」は甚だ深い「般若波羅蜜多」なる智慧の行を行じている時、となります。

ある時私は、ふと気づいたのです。「観自在」「菩薩行深」「般若波羅蜜多時」とも読める…。観は観察する、考察するということの意味ですから「自分のありようをよく観察」し、「菩薩行を深める」ことと受け取れる。「自分は何者なのか…」、「何をしにこの世に生まれて来たのか…」、「とよく考えて観ること。こだわりを捨て、自由で素直な心で物事を観ること、自分の感覚や経験を信じすぎず、見えているものがすべてではないとの謙虚な心を持つことを教えてくれている…と。

菩薩とは、「菩提薩埵」のことで、覺りを求める人という意味です。菩薩には四つの種類があり、その一つに凡夫の菩薩があります。菩提心を起こした人は、すべてすでに菩薩と呼べるのです。菩薩の道は、人々の力となり、他者のために生きると決意する人は菩薩といえます。

「おのが身は かへりみずして つくす
ぞ人の つとめなりける」 祐宮睦仁

住職の健康回復への道のり(37)

この原稿を書きだそうとしたとき、電話が入りました。福岡からでした。念仏信者で、私のコーチングを見てくれていたようです。ところが、コロナのワクチンを三回受けた後から身体に変調をきたし、手が震え、歩行も困難になり…と、石垣クリニックを紹介してほしいとの依頼でした。

手紙を書くこうかと思っただけで手が震えて字が書けない。それで電話にしたとも。言葉ははっきりしています。友達と一緒に念仏会もやってきたが、このような身体となり、それもかなわなくなったとも…。

健康に戻りたいとの切実な思いが伝わってきました。しかし福岡から大阪までの距離は大変な距離です。覚悟がいります。費用もかかります。いま原稿を仕上げている最中です。ゆっくりとお話してできるように、もう一度、お電話を頂けませんか…と電話を置いた。力になれるだろうか…。

春彼岸施餓鬼法要

三月二〇日(木)十時〜

休憩に桜餅を一口一緒にどうぞ!!



※お塔婆の申し込みは三月九日までに、寺世話人様または慶蔵院までお申込みください。

昭和つれづれ物語 ③

父(正三郎)は小俣出身で若い時に大阪へ、私は小俣生まれの大阪育ちです。母(春子)の父は伊勢市栗野の出身です。(若山墓地には大勢の親類の人たちがいます)

年をかさねると伊勢市になる前の三重県度会郡小俣町の中小俣…のことが思い出され…

夏休み等にあそびに、本家の庄治伯父さんと小俣駅から歩いて大きなたるがある前で「どこの子や〜」「しよざの子や〜」「しよざさんの子かな〜」と…(父はしよざさんと呼ばれてたんやあ〜)

馬力の仕事で馬の世話をしてた伯父さんのこと…(母屋の横に馬小屋があったなあ〜)

お盆のかんこ踊りに分家の富三叔父さんがほら貝をふいてました。

本家のいとこのまあちゃん(川西正枝)の子(利弘、先日墓じまいにお参りにきて

落語会「いちご亭」三月十二日(水)午後七時〜

慶蔵院「一会館」にて

無料です

出演

法話 慶蔵院住職
落語 南遊亭栄歌 安楽亭東風

安楽亭小東風(小学二年晋之介君)の紙切り、好評です。お楽しみに!!

くれました)つい利坊といってしまうすが、花笠かぶっていたことを…。

おどりの手の方が白馬の頭かざりが、腰三ノがかっこよかったこと…。

会場の横の坂を下り川で洗い物をしたこと…。

あれから〇〇年。

手抜きもしながら、皆さんに元気をもらいながら笑って過ごせますように…。



(文) 安西律子

私の忘れてはいけない思い出は、今から七十年くらい前の事、新学期ともなれば、兄妹が多いので教科書を買ってもらおう余裕はなく、近所の年上の人に赤線を引いた本を借りて勉強しました。その本は戦後なのか表紙には新しい算数、新しい国語と「新しい」という字が付いています。その本は返さなくてはならないので大切に使用してもらいました。貸してくれた美枝子さんに感謝します。ありがとうございます。

その後昭和三十年代になるともはや戦後ではないと言つ言葉が出てきました。

(文) 中瀬志津子

お迎えが来るまでふわりのシャボン玉

奥田 悦生
(月刊川柳マガジン二月号 掲載)



念仏の声

「新しき人」となる。

人ほふる尻尾も

まく尻尾も 筆のだから

独立自尊の

灯りを点せ。

トランプは

一家団聚のハハメの思ひ

仏のみ真実

たよるもの ただ仏のみ。

従属の同盟ハハ平和なし

犀の角のように

大念仏の道 突き進め。

あけよう。

不幸に対する抗議の声を松也

祖父の葬儀に、滋賀県から駆けつけてくれたお孫さんに声をかけた。「おじいちゃんに、何か話、してみませんか」と。「はい、やります」と応えた彼は、通夜と葬儀の法要の中で二回、霊前に向って語ってくれた。

「おじいちゃんの訃報を聞いたとき、すぐに出了言葉は、『おじいちゃん、ありがとう』だった。なぜ有難とうだったのか、今わかりました。僕は、今お世話している子供たち一人一人に、精いっぱい愛情を持って接しているつもりです。それは、僕自身、おじいちゃんの愛情をいっぱいいただいてきたからなんだ。僕はそのおすそ分けを子どもたちに行っているんだ。そう気づかせてもらいました。だから僕の中には、おじいちゃんが生きていてくれるんだと思いました...」と。

「一つ心残りの事があります。おじいちゃんに酒をすすめられて、二十歳になったら一緒に飲もうと約束していたのに、その機会がないままにお別れとなったことです。いつか、僕も行きますから、その時には一緒に飲みましょう...」と語ってくれた。

夏目漱石は、亡くなる三年前の講演で「独立の精神を大切にする新しき人となれ」と語っている。一九二一年、大逆事件の直後のことだ。時代に流されることなく、権力に追従することなく、自分の目で見て、自分の頭で判断する力を備えなければならぬ。すべての生きとし生けるものが幸せに、平和に、安穩に生きることが出来るように、目の前の不幸にたちむかうことこそ、宗教の本来の役割であることを、肝に銘じたい。